

第2回三田市教育委員会点検・評価委員会 会議録

- 日 時： 令和2年8月7日（金） 14：00～14：50
- 場 所： 三田市役所南分館6階 601A会議室
- 出 席： 大久保委員長、大東委員、藪田委員
- 事務局： 外岡学校教育部長、浅野教育総務課長、上野教育総務課担当課長、山本学校教育課長、山口教育支援課長、村岡教育研修所長、廣瀬学校給食課長、鈴木教育総務課主任、松田教育総務課指導主事

1 開会

2 会議の公開

- ・ 公開とする。

3 委員長あいさつ

前回に引き続き、よろしくお願いします。

この委員会では、令和元年度の事業についての点検評価となっていますが、やはりコロナの対応（学校運営や子どもの対応、教育委員会としての対応）が気になります。

例えば、中学校の部活動であれば、全国大会が中止となり、地区別の大会が実施されています。しかし、日常の部活動が十分にできない中で、子どもたちの感動体験ができるか気になります。

またトライやる・ウィークの実施については、1日実施になると聞きました。もし、自分が学校の立場であれば、子どもたちのやる気を損なうことなく実施するために、どのように子どもたちに伝えるか考えてしまいます。

2学期からの行事の中止についても、特に小6、中3の児童生徒は不完全燃焼のまま終わらないか気になります。

しかし、コロナの対応に関しては、教育委員会が早め早めの判断をしている印象を受け、地域住民として感謝します。現場が混乱する前に、教育委員会が先に先に考えて判断をしていることは、うれしく思います。

今後も学校活動の様子や教育委員会の対応などをしっかり見させていただきたいと思いますが、教育委員会は全般的によくがんばっている印象を受けます。

4 確認事項

(1) 議事録の確認

浅野課長説明

5 議事

- (1) 点検評価委員の意見について
浅野課長説明

委員意見交換（詳細はP 2～）

6 閉会

外岡次長 あいさつ

【委員意見交換】

- 大久保委員長 P66の青パトによる定期巡回パトロール活動について、令和元年度で終了となる。昨年の5月に川崎市で殺傷事件があり、その対応として青パトを導入している。何かあった場合の備えとして、教育委員会として対応できることはあるのか。
- 山本課長 教育委員会と市長部局と連携しながら見守り連絡会を立ち上げている。地域の力をお借りしながら、防犯・子どもの見守り体制を整えている。8月下旬には、三田警察署と危機管理課、学校教育課、健やか育成課で現在の進捗状況の確認する場を設け、情報共有しながら進めている。
- 大久保委員長 P68の勤務時間適正化の推進において、小・中学校教諭の超過時間の記載はあるが、一番忙しい教頭はどうか。
- 浅野課長 今すぐに数値はでないが、教頭以外にも、養護教諭等全て把握している。
- 大久保委員長 P68「ゆりのき台中学校区の4小中学校に自動応答メッセージを導入する」とあるが、留守番電話のことか。緊急で学校に連絡を取りたい場合は、どうなるのか。
- 浅野課長 専用番号があるため、外部と連絡を取れるようにはなっている。
- 大東委員 青パトについて、なぜ中止になったのか。
- 外岡次長 青パトが通過する時間は一瞬だが、地域の人たちが、子どもが通り終わるまでの間ずっと見守ってくれる方が効果的であると考え。子どもの見守りを強化するために、警察と市長部局との連携をとり、何かあった場合は、警察に正門に立ってもらうなど、形を変えて、子どもたちに不安が広がらないように、また課題が残らないよう実施している。
- 大東委員 自分の中では、市長部局の連携とコミュニティ・スクールが課題であるという認識であった。
子どもの貧困やDVの問題は、学校や教育委員会がどれだけ努力しても、根が深いので、健やか育成課や関係部署と連携することが大切だと実感している。より一層の連携を深めてほしいと思った。
コミュニティ・スクールについては、三田型と文部科学省の進めるコミュニティ・スクールがあり、行っていることは一緒だという認識かもしれないが、学校と地域が同等の権限を持って意思決定をする、また地域と学校が対等だという姿勢がないと、WIN WINではないと感じる。

地域と学校がよくなるという視点で、文部科学省が進めるコミュニティ・スクールへの移行について、教育委員会に覚悟し直してもらいたいと思いい意見を述べた。若手教員の同和教育について、同和教育で培ったものは三田の財産だと思うので、若手教員にも大切に受け継いでもらいたい。

藪田委員

今回初めての委員をさせてもらったが、勉強になった。中でも、教育委員会は、よく頑張っていると思った。
コロナの中で、これまでやってきたことが通用しなくなり、令和元年度の評価をそのまま活かすことは難しいと思うので、次年度の評価が気になる。
日々状況が変わるが、臨機応変に対応してもらい、子どもたちに何とか1年無事に終えるような活動をしてもらいたい。

大久保委員
長

教育委員会の学校訪問の参観方法について、少しずつ見るのではなく、1時間きっちり見るのもよいのではと思う。引き続き、教職員との対話を続けてほしい。
学校再編については、子どもと学校のことしか考えていなかったが、自治会活動を通じて、地域にとって学校は大きな存在だと気づいた。再編は大きな問題だと思う。地域や保護者の意見を聞く機会はあるが、子どもの意見もよく聞いてほしい。
「わくわく体操」や「キッピー体操」は効果があると思う。運動が苦手な子ほど、毎日の簡単な体操を継続することは効果があると思う。
コロナの影響で、令和元年度の事業内容が参考にならないので、令和2年度の評価がどうなるか心配だ。
不登校の出現率について、中学生は減っているが昨年度の数値が高かったのではないか。増加傾向にあるのであれば、増加していることを認識しながら取組を進めてもらいたい。
文部科学省が中学生にスマートフォンの持ち込みを容認したことを受け、スマートフォンがらみのいじめが増えてくるのではないか気がかりである。

大久保委員
長

他に意見がないようなので、これで令和2年度の点検・評価報告書はこの案のとおりとさせていただきます。

外岡次長

あいさつ

14:50 終了